

複数施設研究用

「慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease）の予後に関する多施設共同解析」に関する情報公開

1．研究の対象

2002年に愛知県職員としてご在職で、名古屋大学が実施した生活習慣アンケート等にご協力頂き、必要なデータの揃っている方

2．研究目的・方法・研究期間

腎臓は体内の老廃物を排出するのみではなく、ミネラルバランスの調節、赤血球の生成や血圧の調整に関与するホルモンを産生する重要な臓器です。血液中のクレアチニン濃度は腎機能が低下すると上昇し、老廃物を体外へ排出する能力が低下していることを示しています。またタンパク質は腎臓でろ過されないため正常であれば尿中には出現しませんが、腎障害があると尿蛋白が陽性になります。血液クレアチニン濃度の中等度以上の上昇やタンパク尿などの腎障害を示す検査異常が3カ月以上持続する状態を慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）と呼ぶ新たな概念が、近年提唱されました。日本においても成人の約13%がCKDを有していると推測されています。CKDはその後の総死亡、心血管疾患、腎不全のリスクを高めるため、世界各国で研究が精力的に進められています。

「CKDの予後に関する多施設共同解析（CKD Prognosis Consortium: CKD-PC）」では、一定の基準を満たす世界各国の疫学研究データを統合して、統計解析が実施されます。今まで、CKDの診断基準の検討、年齢、性別、人種、基礎疾患の有無によって、CKDの予後に対する影響が異なるかどうかなどが調査されてきました。

本共同研究のPhase 5では、(1)CKD変数を含めたCVDリスク予測モデル開発、(2)末期腎臓病の予測、(3)腎不全リスク因子としてのCVDなどの課題が解析目的とされています。

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、人種、喫煙歴、心血管疾患既往歴、糖尿病歴、薬剤、空腹時血糖値、降圧薬、血圧、脂質異常症の薬、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、トリグリセリド、身長、体重、BMI、心血管疾患発症に関する情報、生死

4．外部への試料・情報の提供

ジョンズ・ホプキンス大学に置かれたデータセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

Johns Hopkins 大学 Bloomberg 公衆衛生大学院・教授・Joseph Coresh

その他、CKD-PC に参加するコホートが記載された website

<https://www.ckdpc.org/participating-cohorts.html>

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについてご対象者もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学

住 所：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電 話：052-744-2127 Fax: 052-744-2131

メール： p-health@med.nagoya-u.ac.jp

研究責任者：八谷 寛

所 属：名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学 教授

研究代表者：

Johns Hopkins 大学 Bloomberg 公衆衛生大学院・教授・Joseph Coresh